

## 隠れた脳 シャンカール・ヴェダントム 渡会圭子訳 合同出版

## —私を操る私の中のもう一人の私—

今帰仁診療所 石川 清和



ケヴィン・メア元在沖総領事、田中聡前沖縄防衛局長、就任直後から様々な失言をして消えていった大臣たち、なぜ多くの政治家、官僚達のトップが非常識な発言をしてその職を追われていったのか？ 偏見や道徳は隠れた脳が司っている。緊張し、疲れ時、加齢によって理性が弱まり隠れた脳が私たちの言動を支配するようになる。無意識での言動を、本人は自分がしたと認識しようとしなさい。しかし、無意識であれ、自分自身の言動に責任は取らねばならない。

私達は多くの情報にさらされている。五感から入る情報をすべて認識することは不可能である。街の中で歩く時、興味のある必要な情報だけを取り出し認識するようにしているのが、隠れた脳である。金額をきちんと入れなくても買えるようになっている自動販売機の値段表の下に人の目の写真と花の写真を表示したとき、人の目の写真を表示した方が花の写真を表示したときよりもきちんとお金を入れている。しかし買った人々は目や花の写真が表示されていることを全く気付いていなかった。意識はしなかったが隠れた脳は目の写真に気づき、監視されていると感じてきちんとお金を入れるように行動をコントロールしたのである。

911テロ事件でサウスタワーにいたKBW会社の職員で89階にいた全員67人が犠牲になり、88階にいた53人はほとんどが脱出した。それは災害・危機時に人々は集団で行動する方がより安心できるという、隠れた脳の働きに左右されたからである。狩猟・採集生活や農耕をして暮らしていた時は、集団でいたほうがはるかに安全であったからである。しかしそれは危険が複雑で、災害・危機時に何が起きているか分かりにくい現代の災害・危機時には個人の自主性を奪い、集団の生命を危機にさらしてしまう可能性がある事を意識しなければならない。

東北地方はたびたび地震・津波に襲われてき

た。リアス式海岸であるため、地震の強さから、津波の到達時間、津波の大きさを予想するのは困難であった。そのため「津波てんでこ」と地震・津波から逃れるには家族でさえ一緒に行動するのではなく、別々に一目散に逃げろと言われていた。あの大津波で悲劇的な集団犠牲者を出した大川小学校は集団で避難しようとし、時間がかかったために被害が大きくなった。災害や危機時に私たちは隠れた脳に支配されやすいということを認識し、災害や危機時の対策を練らなければならない。

同じように、人を評価するにも、道徳的な判断をするにも、偏見を持つようになるのも、男性と女性の間にある深い溝も、テロリストが養成されるのも、集団よりも一人を救助するのにより熱心なのも、私達がほとんど気づいていない私達の隠れた脳が関与している。

私たちが常に意識できるのは私達の記憶・経験の中にある情報の極わずかである。意識できない私達を隠れた脳と呼んでいるが、無意識、意識下、潜在意識等とも呼ばれる隠れた脳に私たちは操られている。その隠れた脳を理解することは患者、家族、友人の言動を理解し、様々な事件や出来事の真相を理解するのにきっと役立つだろう。

